

「グローバル戦略」の概要



平成18年5月18日

I. 策定の背景と基本的な考え方

(背景)

急速なグローバル化の中で、我が国の構造改革のスピードが問われている。

- ・中国やインドをはじめとするBRICsの台頭 → アジアの経済地図が大きく変化
- ・国境を越えた人や企業の活動が拡大

(3つの鍵)

- (1) 戦略性(2010年までの時間軸)
- (2) 選択と集中(比較優位の徹底)
- (3) 目標明示・発信と着実な実行(PDCAサイクル)

II. 目指すべき姿としてのこの国のかたち

- (1) 産業のフロントランナーとして世界をリードする国
- (2) 国際社会において知的なリーダーシップを発揮する品格ある国

III. 目標を実行するための基本方針

- (1) 内なる活性化
- (2) 海外との連携
- (3) 国際貢献

IV. 戦略的に取り組むべき施策と目標(次頁以降)

1. 人材の国際競争力の強化

(1) 人材の質の向上

- 将来の労働市場を担う国際的に通用する人材の確保
 - － 2010年までに国際学力調査における世界トップレベルの達成
- 内閣官房長官の下に設置された「再チャレンジ推進会議」において、各府省における具体的な取組をとりまとめ
- 2007年度に向け、将来の経済活動を担う人材の自立を支援するための新たなプランを作成
 - － 2010年までにフリーターを約2割減少 等
- 国際的に活躍できる人材の育成
 - － TOEIC700点程度(英語で仕事上のコミュニケーションができる)以上の者の倍増 等
- 国際的に魅力をもつとともに知の拠点として地域に貢献する大学の構築

(2) 外国人人材の受入れ拡大と在留管理の強化

- 海外の優れた人材を国内に誘導する環境を整備
- 高度人材の受入れ拡大に向けた入国管理制度の整備
 - － 在留期間の上限につき、特区において5年の在留期間を認めていた措置を全国展開 等
- サービス分野(介護等)において、現在専門的・技術的分野と評価されていない分野に関しても、受入れ範囲の見直しを検討。EPA交渉においても柔軟に対応
- 実効性ある在留管理システムを構築するための論点について本年度内に結論

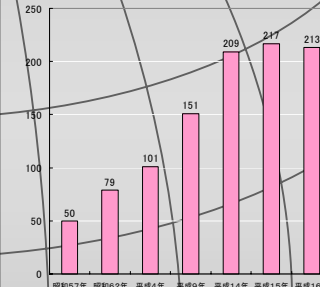
国際学力調査の結果(数学的リテラシー)

【数学的リテラシー】※		
順位	2000年	2003年
1	日本	香港
2	韓国	フィンランド
3	ニュージーランド	韓国
4	フィンランド	オランダ
5	オーストラリア	リヒテンシュタイン
6	カナダ	日本
7	スイス	カナダ
8	イギリス	ベルギー
9	ベルギー	マカオ
10	フランス	スイス

(備考) OECD「生徒の学習到達度調査」2003年調査結果

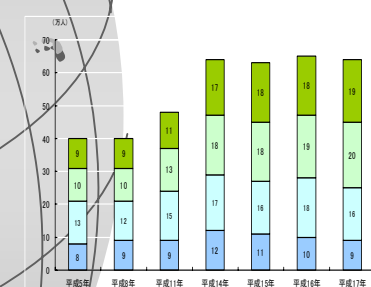
※ 数学的リテラシーとは、「数学が世界で果たす役割を見つけ、理解し、...、生活の中で確実な数学的根拠に基づき判断を行い、数学に携わる能力」をいう。

フリーターの人数の推移



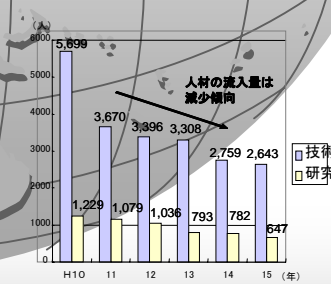
(備考) 厚生労働省

ニートの人数の推移



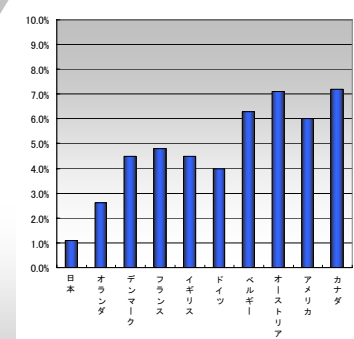
(備考) 労働力調査

技術・研究分野の外国人新規入国者数(日本)



(備考) 法務省出入国管理局統計

高度熟練労働者の外国人比率



2.産業の国際競争力の強化

(1)研究開発機能、知的財産戦略の強化

- 5年で世界的な研究拠点を飛躍的に増加
—2010年に30拠点程度
- 第3次科学技術基本計画全般の施策を着実に実施するため、具体的目標の設定や工程表の作成を行い、PDCAサイクルにより計画に実効性を持たせる
- 知的財産の創造、保護、活用促進に向け、府省横断的な取組を加速

(2)国際拠点港湾・空港の機能向上による国際的事業展開の支援

- 次世代シングルウィンドウである府省共通ポータルを2008年10月に稼動
- スーパー中枢港湾における港湾コストを約3割低減、リードタイムを1日程度に短縮(2010年度)
- 成田空港の約1割能力増強(2009年度内)。羽田空港の約4割能力増強、国際定期便就航(2009年内)

(3)外国からの投資をひきつける環境の整備

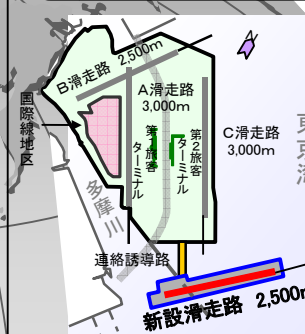
- 2010年に対日投資の対GDP比倍増となる5%程度

(4)経営効率化・高付加価値化等による農林水産業の国際競争力の強化

- 「21世紀新農政2006」で掲げられた目標実現への取組
 - 効率的かつ安定的な農業経営が農地の7~8割を経営するようにする(2015年)
 - 農林水産物・食品の輸出額を5年で2倍の6000億円とする(2009年)
 - 農協の経済事業の改革などにより食料供給コストを5年で2割縮減等
- 林業及び水産業の国際競争力を高めるための総合的戦略を本年度中に策定

羽田空港再拡張事業

新たに4本目の滑走路等を整備し、発着容量の制約の解消、多様な路線網の形成、多頻度化による利用者利便の向上を図るとともに、将来の国内航空需要に対応した発着枠を確保しつつ国際定期便の受入を可能とする。



再拡張により発着容量が1.4倍増加

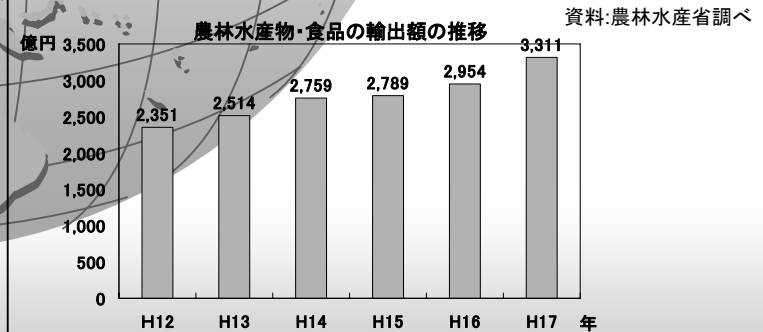
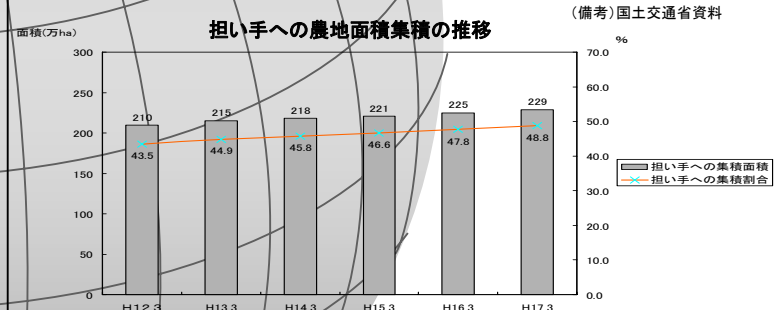
《11.1万回/年(152便/日に相当)増加》

[現行(H17.10.1~)]

30便/時間 29.6万回/年
《405便/日(810回)に相当》

[再拡張後]

40便/時間 40.7万回/年
《557便/日(1114回)に相当》



資料:財務省「貿易統計」